

令和 2 年度地域公共交通事業の収支状況等

1. 地域公共交通事業の収支状況について

(1) 地域コミュニティ交通

ア. こいこいバス (幹線交通)

路線	利用者数 (人)	経常経費 (円)	経常収益 (円)	収支差 (円)	収支率 (%)
こいこいバス	102,952	31,931,000	20,241,562	△11,689,438	63.4

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、利用者数はすべての月において減少し、前年と比較して約 28.5%減少しました。
- ・経常経費は前年度とほぼ同程度ですが、経常収益は前年と比較して約 26%減少したため、収支率が約 25%下がりました。

イ. 支線交通

路線	利用者数 (人)	経常経費 (円)	経常収益 (円)	収支差 (円)	収支率 (%)
三ツ石地区 乗合タクシー	1,068	787,360	242,723	△544,637	30.8
ひまわり タクシー	471	373,600	93,354	△280,246	25.4
湯舟のりあい タクシー	580	388,640	131,811	△256,829	33.9
栄ぐるりん タクシー	1,038	967,500	259,500	△708,000	26.8
あじさい タクシー	242	247,520	54,995	△192,525	22.2
合計	3,399	2,764,620	782,383	△1,982,237	28.3

ア.イ.の合計利用者数 106,351 人

(2) 路線バス (廃止路線代替バス)

路線	利用者数 (人)	経常経費 (円)	経常収益 (円)	収支差 (円)	収支率 (%)
大竹・栗谷線	3,328	15,654,000	1,507,530	△13,984,000	9.6
坂上線	13,387	18,395,825	3,747,900	△14,647,925	20.4
合計	16,715	34,049,825	5,255,430	△28,631,925	15.4

- ・新型コロナウイルス感染症の影響を受け、年間の利用者数は前年と比較して、大竹・栗谷線は約 18%減少、坂上線は約 23%減少しました。
- ・路線バスの経常収益は前年度と比較して約 15%減少、経常経費は前年と比較して約 1%増加したため、収支率が約 3%下がりました。

目標 2 持続可能な地域公共交通サービスが暮らしを支えるまちの実現

評価指標 2 公共交通の利用者数（タクシー補助制度，航路を除く）

《大竹市地域公共交通網形成計画 P51》

	路線バス	地域コミュニティ交通
基準値（平成 29 年度）	24,167 人	155,327 人
令和 2 年度実績値	16,715 人	106,351 人
目標値（令和 4 年度）	22,000 人以上	155,000 人以上

評価指標 3 公共交通の運賃収支率（タクシー補助制度，航路を除く）

《大竹市地域公共交通網形成計画 P52》

基準値（平成 29 年度）	57.1%
令和 2 年度実績値	38.2%
目標値（令和 4 年度）	50%以上

【今後の方針】

路線バス及び地域コミュニティ交通については、運行サービス内容が利用実態や利用ニーズ等に適していない場合は、効率化や利便性向上を図るため、交通事業者と市が協議し、必要な改善について検討、実施します。

2. 地域公共交通事業の利用促進施策の推進について

(1) 市広報を活用した地域公共交通に係る情報発信を実施

令和 2 年 6 月号	・こいこいバスの停留所位置変更（市役所耐震改修工事）
令和 2 年 7 月号	・支線交通の令和元年度運営状況
令和 2 年 8 月号	・こいこいバスの荒天時・災害時の運行ルート変更について
令和 2 年 9 月号	・市内のバスはコロナ対策実施中 ・4 月から 6 月までの利用者の減少について
令和 2 年 11 月号	・こいこいバス「バスエコファミリーキャンペーン」に参加しよう
令和 2 年 12 月号	・こいこいバスの利用者アンケートを実施 ・市内のバスの年末年始のバス運行時刻変更
令和 3 年 1 月号	・こいこいバスの運行ルート変更（黒川市道工事）

- (2) モビリティ・マネジメント※の一環として、バス（こいこいバス）に乗るきっかけづくりを目的としたバスエコファミリーを実施

実施日	11月1日(日), 3日(祝), 7日(土), 8日(日), 14日(土), 15日(日), 21日(土), 22日(日), 23日(祝), 28日(土), 29日(日)		
対象	大人(有料)同伴の小学生の運賃が無料 [大人1人につき小学生2人まで]	実績	37人

※マイカーに過度に依存した生活から、適度に賢く公共交通を活用する暮らしへ、ライフスタイルや意識の転換を促進する働きかけのこと。

目標3 地域公共交通を利用・応援する市民意識が高いまちの実現

評価指標4 市広報を活用した情報発信回数

《大竹市地域公共交通網形成計画 P53》

基準値(平成30年度)	5回/9か月(4月号~12月号)
令和2年度実績値	7回
目標値(令和元~5年度)	毎年6回以上/12か月

評価指標5 バスエコファミリーキャンペーン利用者数

《大竹市地域公共交通網形成計画 P53》

基準値(平成26~30年の平均値)	100.8人
令和2年度実績値	37人
目標値(令和元~5年の平均値)	110人以上

【今後の方針】

公共交通の利用を促進するための情報発信、公共交通の利用意識を高める取り組みを推進します。

3. 地域公共交通の待合い環境などの改善について

- (1) 公共交通（バス）の標準的なバス情報フォーマット（GTFS-JP）を Google へ提供し、Google マップの乗換案内に実装※

※Google 乗換案内により、バス利用者の経路検索や総合的な移動計画が可能になりました。
また、一部運休情報や運行ルート変更情報などの情報発信にも役立つものです。

路線名及び 運用開始日	こいこいバス（令和2年8月から）
	大竹・栗谷線（令和3年1月から）
	坂上線（令和2年12月から）
提供項目	停留所一覧表（緯度経度情報）、路線及び経路、時刻表、運賃 一部運休情報、運行ルート変更情報など

- (2) こいこいバスの停留所「立戸2丁目」、「立戸3丁目」のバス停標識の固定化を実施

固定化したバス停標識



【今後の方針】

特に安全性の向上に重点を置き、待合い環境の整備を推進します。

こいこいバス及び路線バスの運行情報（静的情報）は、導入後の更新体制の確保を継続します。また、今後はオープンデータ化も検討します。

なお、バスロケーションシステム（動的情報）は引き続き検討します。